

## 解 答

1 (A)	2 (C)	3 (A)	4 (D)	5 (C)	6 (B)
7 (C)	8 (A)	9 (B)	10 (D)	11 (B)	12 (A)
13 (A)	14 (B)	15 (A)	16 (A)	17 (C)	18 (A)
19 (C)	20 (B)				

1. 「沖縄でダイビングをしに行くのに夏ほどよい時はない」

no better A than B 「Bに勝るAはない」

There's no better place than my own veranda to sit and watch the sunset.

(座って夕陽を眺めるのに私のベランダほどいい場所はない。)

cf. no better than ~「～も同然で」 (= as bad as ~)

He is no better than a thief.

(彼は泥棒同然である)

2. 「会議中にどんな問題が起きてもパッティはいつもそれらをうまく処理できる」

► No matter what ~「何が[を]～しようとも」は譲歩の構文。このno matter whatはwhateverと同義で副詞節を作る。

► (A)somehow 「どういうわけか」,(B)other than 「～以外の」,(D)however 「どんなに～しようとも」

■複合関係詞whateverをno matter whatで書き換える

whatever=no matter whatで表すことができる。ただし、この書き換えができるのは、whateverが譲歩の意味を表している場合に限られる。

Whatever happens, I will always love you.

(何が起ころうとも、あなたのことを行つも愛しています。)

= No matter what happens, I will always love you.

3. 「ひどい吹雪のために飛行機の到着が遅れそうだ」

► possibleは「可能な」という意味の形容詞でIt is possible (for A) to doの形で用いる。likelyとは異なり、人を主語にすることはできない。

be likely to do 「～しそうである」 ⇌ be unlikely to do 「～しそうもない」

The price of computers is likely to fall again.

(コンピュータはまた安くなりそうだ。)

4. 「ホテルのベッドはとても寝心地が悪かったので、今朝は背中が痛い」

► so ~ that ... 「とても～なので…だ」の構文。suchを用いる場合は、such+形容詞+名詞+that...の構文になる。

so ... that ~とsuch ... that ~の使い分け

ともに「とても…なので～/～するほど…」という意味を表す。ただし、soの後には形容詞または副詞が、suchの後には名詞がくることに注意。

(1) so + 形容詞 [副詞] + that ~

(2) so + 形容詞 + a + 名詞 + that ~ [名詞を伴う場合]

(3) such (+ a) (+ 形容詞) + 名詞 + that ~

『彼はとても親切な(少年な)のでみんなに好かれている』

(1) He is so kind that everybody likes him.

(2) He is so kind a boy that everybody likes him.

(3) He is such a kind boy that everybody likes him.

5. 「向こうにいるあの女性、白いブラウスを着た女性を知っていますか？」

► dressはbe dressed in ~で「～を着ている」の意味。この文では、that woman over thereとコンマ以下が同格となっており、過去分詞dressedがthe oneを修飾している形。

be dressed in ~「～を着ている」 (= be wearing)

Tom was dressed in a dark suit.

(トムは黒っぽいスーツを着ていた。)

► 『着用』を表すin「～を身につけて/～を着て」(=wearing)は入試頻出。

The man in the blue suit is Mr. Brown.

(青いスーツを着ている男性はブラウンさんです。)

6. 「期末試験のために一生懸命勉強したけれども、マリコはそれに合格できなかった」

► 「一生懸命勉強した」ということと「合格できなかった」ということは逆接関係なのでalthoughが適切。

□ although ~「～だけれども」(= though ~)

► althoughはthoughよりもやや堅い語。

Although Mary missed the last train, she was able to get home.

(メアリーは終電車に乗り遅れたけれども、家に帰り着けた。)

7. 「衣食住を確保することは地震で生き残るのに必要不可欠なことだ」

► essential for ~は「～にとって必要不可欠」の意味。前置詞はforか、もしくはtoである。

It is essential for him to overcome the difficulties.

(彼はその困難を克服することが必要だ。)

Good water is essential to good sake.

(良い酒には良い水が不可欠だ。)

8. 「私の両親が乗った飛行機は3時30分に到着予定だったが、6時近くまで到着しなかった」

► be supposed to do「～することになっている」文が過去形のため、wasを用いる。

□ be supposed to do「～することになっている/～すると思われている」

↔ be not supposed to do「～してはいけないことになっている」

He was supposed to meet me at the station, but he never came.

(彼は駅に迎えに来ることになっていたが、来なかつた。)

You are not supposed to park here.(ここに駐車してはいけません。)

9. 「すみません、今夜映画に行けないんです。しなければならない宿題があるので」

► homeworkは不可算名詞なので(A)や(C)は不可。(D)は肯定文なので、someにする必要がある。

10. 「もしメアリーのパーティにどうやって行ったらいいかわからなければ、4番街路と5番通りの角で待ち合わせしましょう」

► 「～の角で」というのは『ある一点』を指すので前置詞はatである。

### ■ 『場所』を表すatとinの使い分け

□ at : 場所の一点(=地点)

at the center 「中央に」 at the corner 「角で」

□ in : 広い場所の中/囲まれた内部

in Japan 「日本で」 in the room[building] 「部屋[建物]の中で」

in the corner 「隅に[の]」

11. 「私の上司は新入社員の採用を決める人だ」

► discussは他動詞の用法のみなので(C)は不可。「私の上司」がどういう人物であるかという構文で、空欄の後は「新入社員の雇用」であるから、(B)が適当である。

□ decide on ~「～に決める」

I haven't decided on a day to visit you.

(お訪ねする日を決めていません。)

cf. decide to do「～することに決める」(= make up one's mind to do)

He decided to postpone his departure.

(= He made up his mind to postpone his departure.)

(彼は出発を延期することに決めた。)

decide on doing「～することに決める」

He decided on postponing his departure. (彼は出発を延期することに決めた)

12. 「速達で小荷物を送ると追加料金がかかります」

▶ サービスなどにかかる料金はchargeという。payは「給料」、priceは「価格」の意味。

『料金・お金』を表す名詞		
<input type="checkbox"/> charge 「(サービスに対する)料金/(電気・ガスなどの)公共料金」		
<input type="checkbox"/> fare 「(乗り物の)運賃」	<input type="checkbox"/> toll 「(有料道路などの)通行料」	
<input type="checkbox"/> fee 「(専門職の人へと)謝礼/報酬/(受験・入会・入場)料金」		
<input type="checkbox"/> tuition 「(大学・私立学校などの)授業料(tuition fee)」		
<input type="checkbox"/> cost 「(何かにかかる)費用/経費」	<input type="checkbox"/> price 「(商品の)値段」	
<input type="checkbox"/> fine[penalty] 「罰金」	<input type="checkbox"/> rent 「家賃/賃貸料」	
<input type="checkbox"/> admission 「入場料(admission fee[charge])」	<input type="checkbox"/> pay 「給料/報酬」	
<input type="checkbox"/> commission 「手数料/歩合」	<input type="checkbox"/> tax 「税金」	<input type="checkbox"/> profit 「利益」
<input type="checkbox"/> cash 「現金」	<input type="checkbox"/> check 「小切手」	<input type="checkbox"/> bill 「請求書/勘定」

13. 「ケイコとジェーンは共通点がある。彼女たちは両方とも小説を読むのが好きだ」

▶ have ~ in common 「～を共通に持つ」 (C)のsimilar toはtoの後に名詞が続かないと不自然。(D)のfamiliar withはbe familiar with ~ 「～をよく知っている」と使う。

have A in common 「Aを共通に持っている」

John and Bill are twins, but they don't seem to have much in common.

(ジョンとビルは双子だが、共通点はそれほど多くないみたいだ。)

▶ have a lot[something / little / nothing] in common

「共通点が多い[いくらかある/ほとんどない/何もない]」

14. 「その発表には部屋に全部でたった14人しかいなかった」

▶ a total of ~ 「総数～」 (A)のsumは、通常a large sum of moneyのように形容詞を伴ってお金のことについて使われる。(C)のnumberは、a number of ~が「多くの～」という意味なので、「14人だけ」という言い方と矛盾するため不可。

a total of ~ 「総数～」

A total of 1,200 people were present.

(総数1200名が出席した。)

a number of A 「たくさんのA」

A number of passengers were injured in the accident.

(相当数の乗客がその事故で負傷した。)

▶ a number of A(複数名詞)が主語の場合は**複数扱い**。

15. 「ATM機では正しい連続する数字を入力すればお金を引き出すことができます」

▶ 連続している数字には(A)のsequence 「連続するもの」を用い、a sequence of numbersで「連続する数字」の意味。(C)はa chain of+複数名詞で「～の連鎖」、(D)はa cycle of ~で「一連の～、～の一団」という意味であるが、(A)が適当である。

a sequence of + 複数名詞 「一連の～」

▶ この場合は**規則的・論理的順序**で連続するものを表す。

cf. a sequence of lessons (一連の課題)

16. 「その幼い男の子は、薄い氷の上でスケートをするのは危険だという友達の警告を無視した」

▶ warnings 「警告」が適切。

▶ (B)threats「脅し」、(C)attention「注意/配慮」、(D)problem「問題」

17. 「シャーリーは子供たちのチャリティーにたくさんの寄付をした」

make a contribution to ~ 「～に寄付をする」

He made a contribution of 50,000 yen to the city hospital.

(市民病院建設のために寄付をお願いいたします。)

cf. make annual contributions (毎年寄付をする)

make an important contribution to community service

(地域の奉仕活動に大いに寄与する)

18. 「その新しい空港はとても発着便数が多い。毎日100便以上の到着便と出発便がある」

▶ 電車や飛行機の「出発」には*departure*, 「到着」には*arrival*を使う。

▶ (B)*exit*「出口/退場」, (D)*going*「行くこと/出発」

19. 「メアリーはその事故の目撃者として警察に名乗った」

▶ *identify oneself as* ~「～と名乗る」に, *to the police*「警察に」が挿入された形となっている。

▶ (A)*admit*「～を認める」, (B)*communicate*「～を伝える」, (D)*show oneself*「(人が)姿を現す」

cf.  **identify A as B**「AをBであると確認する」

**identify oneself to A**「Aに身分を明かす」

**identify A with B**「AをBと同一視する」

20. 「ジョンは今度の夏にスペインへ行きたいと思っているが、私はカナダへ行きたい」

▶ *going*という動名詞を目的語にとれるのは*prefer*「(むしろ)～したい」のみ。

**prefer doing**「～することを好む」

I used to like swimming, but now I prefer jogging.

(私は以前は水泳が好きでしたが、今はジョギングのほうが好きです。)

cf. **prefer A to B**「BよりもAを好む」 (= like A better than B)

I prefer playing sports to watching them.

(スポーツは見るよりもするほうが好きだ。)